

北海道教育委員会教育長 様

北海道八雲高等学校長 円 山 健 一

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1 生命尊重や人権擁護の精神のもと、生徒の心の琴線に触れる教育を推進する学校
2 生徒一人ひとりの学力向上を目指し、主体的でより高い資質・能力を育成する学校
3 保護者の期待に応え、生徒が希望する進路を実現する学校
4 保護者や地域から信頼され、生徒にとって魅力ある居心地のよい学校
5 職員が相互信頼を持って仕事に取り組み、強みを生かし合う学校

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
総 務	・各種行事については、コロナ前と同程度の水準までに戻すことが出来た。今後も生徒の学びを止めないように実施していく。 ・学校ホームページの充実化を図った。タイムリーかつ生徒の学校での様子を適切に情報発信できた。また保護者と学校間の連絡方法は、一斉メール配信システムを有効活用でき、校務DX化と併せて教員の働き方改革の一助となった。 ・各種資料の整理・整備を図った。	・ホームページがリアルタイムで更新され、学校の教育活動や生徒の頑張り等が伝わるようになった。今後も途切れのない情報発信を願う。 ・熱中症や感染症対策など、学校を取り巻く様々な対応について、家庭との連携を一層密にする必要がある。 ・校務DX化については、今後も他校の先行事例を参考とするなど、より一層の充実を図ってほしい。
改善方策	・学校の教育活動が地域や保護者に円滑に発信されるよう、広報体制の一層の充実を図る。 ・校務DX化をより一層進め、校務の効率化を図ることにより、質の高い教育の実現につなげる。	
教 務	・図書、視聴覚教材の充実が図られ、併せて授業におけるICTの活用も軌道に乗りつつある。 ・生徒、保護者、地域に開かれた教育課程の具現化を目指すとともに、多様な進路希望に対応しながらも、どのような生徒を育成するかという学校教育目標に沿った教育課程の実現を目指すことが求められる。	・来年度の公開授業については、保護者や関係機関・企業関係者へも公開し、地域と連携した教育活動の一助としてほしい。 ・多様な進路希望を持つ生徒達に対応したバランスの良い教育課程編成を望むところである。
改善方策	・授業と評価の一体化に向けて、授業評価を取り入れるなど、授業改善の取組を進める。	
生徒指導	・本校の不登校・いじめの予防・防止の要であるピアサポート活動は、その地道な活動が評価を受けている。 ・進路指導とからめて、八雲高校生としての誇りを意識させる指導が必要である。	・八雲高校のピアサポート活動は、生徒の人間関係の構築や個々の成長に貢献している。生徒個々の能力・適性・希望に合わせ、夢が叶うようご指導願いたい。 ・闇バイトやグルーミングによる性被害など、生徒を取り巻く危機に対応した防犯教室に、さらに取り組んでもらいたい。
改善方策	・いじめ防止の取組を継続するとともに、SNSを悪用した犯罪等に巻き込まれないよう、今後も未然防止の指導とトラブルに対する対応を組織的かつ粘り強く実施する。	
進路指導	・個人面談、進路ガイダンス等の実施で個々に応じた支援をした。また、大学入試共通テストに向けた1・2学年の講習体制の充実を図った。 ・学びと将来の自分像（長いスパンで人生を）考えることができる生徒の育成が求められる。	・インターンシップ（アカデミックインターンシップ含む）の実施に積極的な取組を求める。 ・職業体験だけではなく、専門的な学問と職業のつながりについて学ぶことは、生徒のやる気の起爆剤となる。
改善方策	・生徒の希望進路の決定を目指し、今後もガイダンス機能を充実させ、一人ひとりの進路に合った指導を展開していく。 ・八雲町合同企業説明会の拡充	
その他	地元企業からの求人に見られるように、八雲高校の教育、生徒の資質に一定の評価と期待を得ている。教科・科目の学習のみならず、総合的人間力をつけていけられるような幅広い学習機会が求められる。	・八雲町からの労働人口の流失が、今後深刻な問題になってくる。地域連携をさらに進め、今後も若者の力を地域に活かし、持続可能な町づくりに貢献しうる学校として存続願う。
改善方策	・生徒及び教職員の地域参加をより一層充実させる。	
公表方法	・PTA総会での説明 ・学校ホームページへの掲載	

3 添付資料

令和6年度自己評価書・学校関係者評価書